

指標・KPIの考え方

例) 冊子P.103

施策名称	I-政策1 授業改善サイクル [*] の確立・授業と授業外学習を 切れ目なくつなぐシームレス化（義務教育段階）	施策 No,	(1)
		担当課	小中学校課 教育政策課
概要	義務教育段階において、個別最適・協働的な学びの一体的な充実に向け、問題解決型学習を推進するとともに、ICT を効果的に活用しながら、授業改善サイクルの確立や授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化を進める。		

施策

施策（1）の達成の目安となる指標

①「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童生徒（小学校6年、中学校3年）の割合を85%以上、かつ全国平均以上とする。

（肯定的に回答した割合） <全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査 7月公表>

○ R9年度末の指標の達成に向けた年度別の実績目標 *（ ）内は全国平均

R5（基準値）	小学校：78.1%（78.8%）、中学校：82.9%（79.2%）
R6	小学校：79.0%、中学校：83.0%
R7	小学校：81.0%、中学校：83.5%
R8	小学校：83.0%、中学校：84.0%
R9	小学校・中学校：85.0%以上、かつ全国平均以上

②「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童生徒（小学校6年、中学校3年）の割合を85%以上、かつ全国平均以上とする。

（肯定的に回答した割合） <全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査 7月公表>

○ R9年度末の指標の達成に向けた年度別の実績目標 *（ ）内は全国平均

R5（基準値）	小学校：79.6%（81.8%）、中学校：82.8%（79.7%）
R6	小学校：80.0%、中学校：83.0%
R7	小学校：81.0%、中学校：83.5%
R8	小学校：83.0%、中学校：84.0%
R9	小学校・中学校：85.0%以上、かつ全国平均以上

③「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり全く勉強しない」と回答した児童生徒（小学校6年、中学校3年）の割合を5%以下、かつ全国平均以下とする。

<全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査 7月公表>

○ R9年度末の指標の達成に向けた年度別の実績目標 *（ ）内は全国平均

R5（基準値）	小学校：6.3%（4.6%）、中学校：8.1%（6.0%）
R6	小学校：6.0%以下、中学校：7.5%以下
R7	小学校：5.6%以下、中学校：7.0%以下
R8	小学校：5.3%以下、中学校：6.0%以下
R9	小学校・中学校：5.0%以下、かつ全国平均以下

④「家で自分で計画を立てて勉強をしている（学校の授業の予習や復習を含む）」と回答した児童（小学校6年）の割合を75%以上、生徒（中学校3年）の割合を65%以上、かつ全国平均以上とする。

（肯定的に回答した割合） <全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査 7月公表>

施策の指標

計画の年次改訂の検討の際に、年度毎の指標が達成できているかを確認

○ R 9 年度末の指標の達成に向けた年度別の実績目標 * () 内は全国平均

R 5 (基準値)	小学校: 68.8% (70.7%)、中学校: 56.0% (55.0%)
R 6	小学校: 69.0%、中学校: 59.0%
R 7	小学校: 71.0%、中学校: 61.0%
R 8	小学校: 73.0%、中学校: 63.0%
R 9	小学校: 75.0%以上、中学校: 65.0%以上、かつ全国平均以上

施策(1)を実現するために実施する各取組・事業

No.1 【新】「令和の授業を創る」推進プロジェクト (小中学校課)

【概要】個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推進し、自ら課題を設定し、課題解決に向かい続ける児童生徒の育成を図るため、授業づくり講座等において、学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び、ともに高め合う教員の育成を目指す。

【KPI】「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」と回答した小・中学校の割合を35%以上、かつ全国平均以上とする。(強肯定の回答をした割合)

<基準値> R 5 小学校: 19.6% (20.9%)、中学校: 24.5% (19.6%) * () 内は全国平均
<全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査>

【KPI】「児童生徒は授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」と回答した小・中学校の割合を35%以上、かつ全国平均以上とする。(強肯定の回答をした割合)

<基準値> R 5 小学校: 26.6% (21.4%)、中学校: 19.4% (19.2%) * () 内は全国平均
<全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査>

No.2 デジタル技術を活用した個別最適・協働的な学びの充実 (小中学校課)

【概要】1人1台タブレット端末やデジタル教材を効果的に活用しながら、問題解決に主眼を置いた授業改善と、授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化を推進することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るとともに、1人1台タブレット端末の持ち帰りによる授業外学習の充実を図る。

【KPI】児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業で「ほぼ毎日」及び「週3回以上」活用している小・中学校の割合を100%とする。

<基準値> R 5 小学校: 89.7% (90.6%)、中学校: 91.8% (86.7%) * () 内は全国平均
<全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査>

【KPI】「児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を毎日持ち帰っている」と回答した小・中学校の割合を50%以上、かつ全国平均以上とする。

<基準値> R 5 小学校: 13.5% (32.5%)、中学校: 24.5% (40.9%) * () 内は全国平均
<全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査>

No.3 学習支援プラットフォームの活用促進 (教育政策課)

【概要】学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ^{*}」の活用を促進し、スタディオグダッシュボード^{*}や「きもちメーター」^{*}等を活用することで、児童生徒一人一人の強みを伸ばしてつまづきをサポートする教員の指導の充実を図り、児童生徒の主体的・自主的な学習につなげる。

【KPI】県独自調査で「高知家まなびばこの機能(「きもちメーター」、スタディオグダッシュボード、Google フォーム^{*}のアンケートなど)により、児童生徒の状況を把握して指導に生かしている」と回答した教員(小・中・高等学校)の割合を100%にする。

<基準値> — * R 6 より新設 KPI <県調査>

それぞれのステップの進捗等をもとに要因を分析
施策の指標が達成できていない時は、
施策の実現のために掲げる各取組・事業の

必要に応じて
教育振興基本計画の年次改訂を検討

